

定期予防接種スケジュール

名前 _____

生年月日 _____

記入例 7月10日生まれの場合

2 月
(9/10)
①
9/15

- ・「〇か月」の下に月齢ごとの日付を書いておきましょう。
- ・実際に接種した日を記録しておきましょう。

ワクチン名		0 か月	1 か月	2 か月	3 か月	4 か月	5 か月	6 か月	7 か月	8 か月	9 か月	10 か月	11 か月	12 か月	1 歳 1 か月	1 歳 2 か月	1 歳 3 か月	1 歳 4 か月	1 歳 5 か月	1 歳 6 か月	1 歳 11 か月	2 歳	2 歳 2 か月	2 歳 11 か月	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳以上
		(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)
不活化 ワクチン	ヒブ			①	②	③										④																
不活化 ワクチン	小児用 肺炎球菌			①	②	③										④																
不活化 ワクチン	B型肝炎			①	②					③																						
不活化 ワクチン	四種混合			①	②	③													④													
生 ワクチン	結核 (BCG)						①																									
生 ワクチン	麻疹 風しん 混合														①																	
生 ワクチン	水痘													①							②											
不活化 ワクチン	日本脳炎																							①	②	③						
不活化 ワクチン	子宮頸 がん予防 ※																															

二種混合：
小学6年生で
追加接種

麻疹風しん
混合2期：
小学校就学前
の1年間
(年長児相当)

子宮頸がん予防：小学6年生～高校1年生相当

●同じ予防接種との標準的な接種間隔・回数

ヒブ※	初回免疫	27～56日までの間隔をにおいて3回
	追加免疫	初回免疫（3回目）終了後、7～13か月までの間隔をにおいて1回
小児用肺炎球菌※	初回免疫	27日以上の間隔をにおいて3回
	追加免疫	生後12か月以降かつ初回免疫（3回目）終了後、60日以上の間隔をにおいて1回
B型肝炎	2回目	1回目から27日以上の間隔をにおいて1回
	3回目	1回目から139日以上、2回目から6日以上の間隔をにおいて1回
	追加免疫	1期初回（3回目）終了後、12～18か月までの間隔をにおいて1回
四種混合	初回免疫	20～56日までの間隔をにおいて3回
	追加免疫	1期初回（3回目）終了後、12～18か月までの間隔をにおいて1回
水痘	1回目	生後12～15月に達するまでの期間に1回
	2回目	1回目終了後、6～12月までの間隔をにおいて1回
日本脳炎	1期初回	6～28日までの間隔をにおいて2回
	1期追加	1期初回（2回目）から概ね1年後に1回

※ヒブ・小児用肺炎球菌は、生後2か月から7か月に至るまでに接種を開始した場合の接種間隔・回数です。

◆法律等により、予防接種の内容に変更が生じる可能性があります。 令和2年4月1日現在

◆日本脳炎2期・二種混合の対象時には、個別通知します。
※子宮頸がん予防(女子のみ)は、国の通知により積極的な勧奨の差し控えをしておりますので、有効性とリスクを確認の上、接種してください。

標準的な接種期間および接種可能な期間で受ける場合は、原則として無料（公費負担）です。
標準的な接種期間 接種可能な期間

●異なった種類のワクチンを接種する場合の間隔

ワクチンの種類	ワクチン名	他のワクチンを接種する時の間隔
生ワクチン	結核（BCG）、麻疹風しん混合、水痘、おたふくかぜなど	27日（4週間）以上おく
不活化ワクチン	ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎、四種混合、日本脳炎、子宮頸がん予防など	6日（1週間）以上おく

ワクチンで予防できる子どもの病気

・ヒブワクチンで予防します

【Hib(インフルエンザ菌b型)感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌(※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの)による病気で、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5才までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しく、重症化します。死亡や重い後遺症の残る例もあります。

小児用肺炎球菌ワクチンで予防します

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気で、菌血症、肺炎、脳を包む髄膜炎が炎症を起こす細菌性髄膜炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、重い後遺症を残したり死亡する例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階であることが多いです。

B型肝炎ワクチンで予防します

【B型肝炎】

B型肝炎ウイルスに感染しているお母さんから分娩時に感染するだけでなく、感染している父親や兄弟姉妹など周囲の人からも感染します。子どもの場合は原因不明の場合もあります。肝炎になり、慢性化すると肝硬変や肝臓がんの原因になります。

ロタウイルスワクチンで予防します

【ロタウイルス胃腸炎】

乳幼児がかかりやすい病気で、嘔吐と下痢を繰り返すと脱水症になります。けいれんや脳症を合併することもあります。感染力が大変強く、しばしば保育園・幼稚園などで流行します。

三種混合(DPT)ワクチンで予防します

【ジフテリア】

ジフテリア菌がのどに炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし、死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳症を併発することがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなることもあります。

BCGワクチンで予防します

【結核】

大人ではせきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、体重減少、発達の遅れなどでみつけることもあります。赤ちゃんの場合は、粟粒結核や髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡することもあります。

ポリオワクチンで予防します

【ポリオ】

小児麻痺とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は熱が下がった後に片側の手足に弛緩性麻痺を生じ、後遺症を残すことがあります。

麻しん・風しん混合(MR)ワクチンで予防します

【麻しん(はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、再び上がります。特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。子どもでは重い病気で、かかると肺炎や中耳炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風しん(三日ばしか)】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの3症状が特徴の病気です。熱がでないことも多くかぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

水痘ワクチンで予防します

【水痘(みずぼうそう)】

強いかゆみのある赤い水疱をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

・おたふくかぜワクチンで予防します

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

発熱とともに片方または両方の唾液腺(※耳の下からあごにかけての部分)、特に耳下腺がはれる病気です。ふつう1~2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴になることもあります。

・日本脳炎ワクチンで予防します

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運びヒトを刺し感染させ、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても多くは無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。一旦かかると治療法がなく、死亡や重い後遺症の危険性があります。

・インフルエンザワクチンで予防します

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと後遺症を残したり、死亡することもあります。